

茨木市立中津小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 良好な結果であった |
| ② A話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ③ B書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ④ C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

・もっとも正答率の高かった設問・・・1三 津田梅子についての【スピーチ】の練習の部分で話す内容として適切なものを選択する
・もっとも正答率の低かった設問・・・2四 面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く

分析

- ・全国と比べ(領域)「書くこと」(問題形式)「記述式」の正答率が全国と比べてやや課題が残るが(領域)話すこと・聞くことの正答率が全国と比べ良好な結果である。読む力をさらに伸ばし、作者や自分の思い・考えを文章で表現できるような学習活動の充実を図る授業づくりが必要であると考えられる。
- ・無回答率が全国と比べ概ね良好な結果であり、意欲や自信をもって学習に取り組んでいる児童の割合も高いと考えられる。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算 | 良好な結果であった |
| ② B図形 | 大変良好な結果であった |
| ③ C測定 | 概ね良好な結果であった |
| ④ C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問・・・3 (1) 6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ
- ・もっとも正答率の低かった設問・・・1 (3) ㉞と㉟の二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ

分析

- ・すべての領域、問題形式において正答率が全国平均を上回った。
特に正答率が(領域)「B図形」と(問題形式)「記述式」が全国に比べかなり高く大変良好な結果となった。
- ・(領域)「A数と計算」の正答率が全国と比べ良好な結果であり、基本的なことが積み上がり、定着できている児童が多いと考えられる。
- ・(領域)「Dデータの活用」では正答率が全国と比べ良好な結果であり、図や表などいろいろな情報を活用することが得意とする児童が多いと考えられる。
ただし、棒グラフの問題では正答率は高いものの、全国平均を下回っている。
- ・無回答率が全国と比べ概ね良好な結果であり、自信をもって学習に取り組んでいる児童の割合も高いと考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平成31年度は全国の平均正答率を下回ったが、今年度は正答率が上がっている。
- ・算数は、日頃からの積み上げの成果が出ているように思われる。
- ・正答率を全国平均と比較すると、国語より算数を得意としている児童が多い傾向がみられる。今後も国語の力、特に書く力を育成する授業づくりの研究が必要と考えられる。
- ・算数では大変良好な結果になった。3, 4年生時 習熟度別少人数指導を行ったことも成果につながっている。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・すべてのテストにおいて、学力高位層が増え、学力低位層が減っている。
- ・算数の方が国語より、学力高位層が多い。
- ・一昨年度よりも高位層と低位層との差が大きく開いている。
- ・エンパワー層は、全国平均より低いが、0ではないため、この層を意識した取組みも必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

- ・読む力をさらに伸ばし、書く力をつける授業づくりの研究をする。
- ・学力低位層に対する補習や支援をする。
- ・算数は、全体的な正答率は良好なため、引き続き中津小学校の取組みを継続していく。
- ・国語は、記述式の問題に苦手意識が高いので、子どもたちがどのようなことを書き表すことが苦手なのか、検証して引き続き中津小学校の取組みの工夫と改善を続けていく。
- ・自分の思いを言語化できるような場面を様々な教科等や普段の生活の中で意識するように促す。
- ・書く力向上のため、作文指導や、読む力を伸ばす中で文章問題指導の強化を引き続き行っていく。
- ・文章から必要な情報を読み取る力をつけるため、読書活動・図書館教育を推進する。
- ・支援を要する児童への支援内容の工夫と改善について検討を行い、実施していく。
- ・書く力を育むノートづくりを研究し、授業のふりかえり等を通じて書く力を育んでいく。
- ・言語活動を大切にし、定着すべき基礎言語を獲得させる取組みを推進する。
- ・個に応じた学習支援の充実を図る。
- ・家庭との連携を深め、宿題等家庭学習の効果的な活用を図る。
- ・学び合い、高め合える学習集団づくり・学級集団づくりを推進する。
- ・もっと学びたい、知りたいと思える、わからないと言える学習意欲を高める学習環境づくり、授業づくりを推進する。
- ・クラスの児童だけでなく、学年として児童の成長を見守る。

<検証>

- ・全国学力学習状況調査の分析
- ・学校教育自己診断実施と分析結果の共有
- ・授業アンケートの集計